2．歴史的環境

（1）歴史の変遷

1）原始（旧石器時代から古墳時代）

本市では、主に上津荒木川の上・中流域、高良山北西麓から筑後川に向けての低台地上において二万年以上前の後期旧石器が 30 点以上発見されており、この頃から人々の暮らしが始まったことが分かる。

縄文時代の遺跡は、耳納山地西側を中心に多く分布し、人々の活動痕跡がより明瞭となる。筑後国府跡の南東部、断層崖上にあたる横道遺跡（御井町）では、筑後地域で最古段階に位置付けられる隆起線文土器をはじめ、後期を除く全時期の遺物が出土し、集石遺構や焼土遺構も検出された。縄文時代の遺跡から出土した遺物の中には、西九州地方の影響を受けた土器や瀬戸内地方を中心に分布する土器などが見られ、他地域との交流が窺える。

旗原遺跡（荒木町）など筑後川支流の広川下流域からは弥生時代早期の土器が出土し、大陸や半島から稲作文化が伝わったことが推察される。その後も海外との交流は続き、久保遺跡（城島町）では前期末から中期の朝鮮系無文土器が出土した。また、新府遺跡（東合川八丁目）では小銅鐸鋳型が発見され、金属器生産技術が伝えられたことが判明している。中期には高良山西麓の台地上に比較的多くの集落が見られる。終末期には筑後川沿いに拠点的な集落と考えられる水分遺跡（田主丸町）・良積遺跡（北野町）・道蔵遺跡（大善寺町）などが分布する。これらの拠点的集落からは、広形銅矛耳・辰砂・豊前系土器・肥後系土器（水分遺跡）、青銅鏡・有肩袋状鉄斧・山陰系土器・畿内系土器（良積遺跡）、青銅製鉇・三韓土器（道蔵遺跡）、肥前型器台（良積・道蔵・大林遺跡）などが出土しており、弥生時代には国内のみならず大陸や半島との交流・交易も活発となったことが分かる。また、筑後川左岸の自然堤防上には 100 基を超える甕棺墓やそれに伴う祭祀土坑等が検出された安国寺甕棺墓群（山川神代一丁目）が営まれ、当時の精神文化を伝えている。

図 2-2-1　国史跡御塚・権現塚古墳
（平成５年撮影）

高良山麓は、市内でも最古級の古墳が営まれた地域で、方形の墳丘を持つ祇園山古墳（御井町）は、石棺内部から三角縁神獣鏡が出土したと伝えられる。市ノ上東屋敷遺跡（合川町）では、祇園山古墳と同時代の豪族居館と想定される方形区画と堀立柱建物が検出されており、関連性が考えられる。筑後国府跡の周辺では、５世紀中頃から６世紀前半にかけて藤山甲塚古墳（藤山町）、石櫃山古墳（国分町）、浦山古墳（上津町）、日輪寺古墳（京町）など前方後円墳などの大型古墳が築造されており、首長墓系列が確認される地域でもある。市西部の三潴地域には、『日本書紀』にその名が見える水沼君の墓所とされる御塚・権現塚古墳（大善寺町、図 2-2-1）がある。同古墳からは新羅土器が出土しており、大陸や半島との交渉に関わっていた可能性が窺える。隈山古墳群（国分町）・大谷古墳群・岩竹古墳群（以上、高良内町）の調査においては、周辺では出土しえない銀製山梔玉・金銅製飾り金具・権を確認しており、磐井の乱が契機となって王権による当地域の支配強化が進んだと考えられ、当地域が筑後地方における地方支配の拠点として発展していく要因となる。

２）古代（飛鳥時代から平安時代）

７世紀は激動の世紀と呼ばれ、中国を統一した唐が周辺諸国へ軍事介入したことから、東アジア情勢が不安定化した。663 年の白村江の戦いで大敗を喫したヤマト王権は、さらなる国土防衛の必要性に迫られた。この頃、王権によって整備されたのが、神籠石をはじめとする古代山城である。本市には、高良山神籠石（御井町、図 2-2-2）、上津土塁跡（上津町）、筑後国府跡前身官衙（合川町）が築かれた。

図 2-2-2　国史跡高良山神籠石
（平成５年撮影）

奈良時代に入り中央集権化を進める政府は、律令国家の成立に伴い地方の行政区分を行った。地方支配の基本単位は国で、７世紀末に筑紫国から筑後国が分割されると、前身官衙跡地に筑後国府が設置された。同時に、大宰府と九州各地の国府を結ぶ幹線道路である西海道が整備された（図 2-2-3）。この遺構も本市では複数箇所で確認されている。８世紀初めの大宰府の成立を受けて、筑後国府もⅡ期政庁が新造され東へ移転した。このころ、筑後国府跡の東側には、御井郡衙もしくは寺院跡とされるヘボノ木遺跡（東合川三丁目）や神道遺跡（御井旗崎一丁目）などが営まれ、国府に関連する遺跡が増加している。一方、国分寺建立の詔によって筑後国分寺と国分尼寺（国分町）も造営され、合川町から国分町にかけては、古代筑後国の政治・経済・文化の中心地として発展することになった。

平安時代には、筑後国府跡Ⅱ期政庁、筑後国分寺をはじめ、高良山高隆寺の大改築など数多くの公共工事が実施された。筑後国守に赴任した都朝臣御酉は、悪化した財政の改革を行おうとするが、元慶７年（883）、自分の部下らを含む新興勢力の富豪の輩によって殺害される事件が起こる。その舞台である国司館が筑後国府跡で発掘されている。

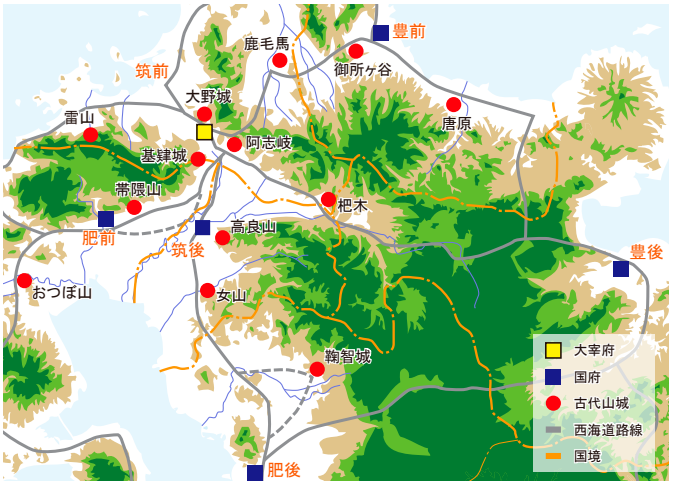


図 2-2-3　国府・古代山城と西海道路線図

天慶２年（939）に勃発した藤原純友の乱によって、大宰府とともにⅡ期政庁も焼失したとされている。このため政庁は朝妻町に移転再建されるが、このⅢ期政庁の空間規模は他国に例がないほど大規模なものであることが判明している。また、乱のため焼失した神名帳に代わり作成された新神名帳の控えが高良大社に残されている。現存する日本最古の神名帳であるが、この中に、玖留見神の名が見え、これを久留米の地名起源とする説がある。

11 世紀後半になるとⅢ期政庁は断層崖上の字横道周辺へと移転する。『高良記』には延久５年（1073）に「今ノ符」に移ったとあり、これをⅣ期政庁に比定している。Ⅳ期政庁の移転とともに、高良山西麓には集落が形成されはじめており、二本木遺跡（御井町）はその代表例である。

３）中世（鎌倉時代から安土・桃山時代）

文治２年（1186)、筑後国在国司･押領使に任じられた草野氏は竹井城（草野町）に拠点を置き、城下町を整備し、古社寺だけでなく積極的に新興仏教勢力を保護した。蒙古襲来の際は、草野氏は小船で蒙古軍と戦い、神代氏は筑後川を渡河する肥薩勢のために浮橋をかけるなど、筑後勢の活躍が知られている。

この時期、断層崖下の計画対象範囲内では、新たな土地利用がなされていく。字葉山・天神木周辺では、12 世紀以降に掘立柱建物や区画溝、道路などが相次いで営まれ、13 世紀前半まで築地や土塁に囲まれた施設が維持された。その後は墓地としての土地利用がなされることが判明している。また、断層崖上に営まれたⅣ期政庁も 12 世紀後半には機能を停止し、以後、高良山麓の筑後府中が大いに発展している状況が看取される。

南北朝期の本市は、北部九州支配の要衝として重要な位置を占めた。筑後を制圧した征西将軍宮懐良親王が高良山に在陣し、毘沙門岳城や杉ノ城が南朝方の拠点となっている。正平 14 年（1359）に現在の宮ノ陣町から小郡市南部一帯を舞台に「大保原の戦い」が勃発し、その２年後に南朝方は大宰府に入り、征西府を樹立した。その後、九州探題の今川了俊が九州入りすると状況が一変し、再び高良山に拠点を移した。また、永正年間（1504 ～ 1521）には、高良山の支城として笹原城（後の久留米城）が築造されている。前時代に引き続き、府中は高良社の門前町として大いに繁栄していた様子が窺える（図 2-2-4)。

図 2-2-4　絹本着色高良大社縁起
（山内図、高良大社蔵）

戦国時代には、本市を含む筑後国は主に豊後の大友氏の勢力下にあり､在地土豪は､派遣された代官の下に割拠しており､大きい勢力とはならなかった。時期によっては、周防の大内氏、肥前の龍造寺氏、薩摩の島津氏が侵入し、その勢力争いの場となっていた。しかし、天正 15 年（1587）には豊臣秀吉がついに九州を平定した。国割により、久留米城に入城したのは小早川秀包である。秀包はキリシタン大名として知られ、城下に教会を建設したといわれている。市役所庁舎建設に伴う久留米城下町遺跡（両替町）の発掘調査では、聖堂と推定される建物遺構とキリシタン関連遺物が発見されている。

４）近世（江戸時代）

関ヶ原の戦いの後、田中吉政が筑後 30 万石の太守に封じられた。吉政は柳川城を本城としたが、久留米城には次子則政を配置し、両城間を結ぶ柳川往還を建設した。また､城下町や道路交通網､河川･堤防の整備､新田開発などを積極的に進めた。しかし、二代忠政には嫡子がなく､元和６年（1620）に田中家は断絶した。

元和７年（1621)、丹波福知山から有馬豊氏が久留

図 2-2-5　久留米城本丸跡（平成５年撮影）

米城に入城し、筑後北半 21 万石を領した。豊氏は荒廃した久留米城の全面修築と拡張、城下町の拡張整備を進めた。城郭については、筑後川に面した小丘にある本丸を東から南向きに改造し、城の西・北・東の三方が筑後川や湿地帯に囲まれていたため、本丸から南方へ二ノ丸・三ノ丸・外郭を連ねた連郭式の構造とした（図 2-2-5）。城郭の南面には侍屋敷群や寺町が取り巻き、防御を固めている。城と併行して、武家屋敷や町屋の建設も進められ、一応の完成を見たのは明暦元年（1655）頃である。また、城下の西側には筑後川の川港である瀬下町があり、南側からは柳川往還、東側からは日田街道が延びるなど、水陸交通網の整備も進めている。

一方、中世以来、高良山の麓にあって門前町として栄えた筑後府中は、薩摩坊ノ津街道が整備されるとともに、宿場町としての機能を担うことになる。歴代藩主に厚く庇護された高良社とともに、大いに発展した。

５）近代（明治時代から戦前）

明治 4 年（1871）の廃藩置県で久留米藩は久留米県となり、同年 11 月には柳川県・三池県と合併して三潴県が成立した。県庁は、当初、若津（大川市）に設置され、明治 5 年（1872）に旧久留米藩御使者屋（現両替町公園）に移転した。明治 6 年（1873）1 月の「廃城令」により久留米城は正式に廃城となった後、同 9 年（1876）には福岡県と合併した。

明治 22 年（1889） 4 月、全国のほか 30 市とともに市制が施行され、旧城下を範囲として久留米市が誕生した。また、旧京隈侍屋敷のほぼ中央部を縦断する形で九州鉄道が敷設され、翌年（1890） 3 月には、久留米停車場が開業した。

日清戦争後の軍拡政策により、明治 30 年（1897）に陸軍歩兵 48 連隊が移駐したことを皮切りに、軍の関連施設が次々に建設され、本市は軍都としての側面を持つようになった。現在でも市内では多くの戦争遺跡を見ることができる（図 2-2-6）。

図 2-2-6　陸軍橋（令和元年撮影）

昭和 20 年（1945） 8 月 11 日、本市の市街地は米陸軍第 7 航空軍の B24 重爆撃機 53 機によって、無差別焼夷弾攻撃を受けた。投下された 500 ポンド焼夷弾は計 636 発 15 ｔにも上った。死者 214 名以上、重軽傷者 160 人を出し、市街地の 60%から 70%が焼失し、街は灰燼に帰した。

６）現代（戦後から現在）

終戦を迎え、進駐した連合国により、市内各兵営に保管されていた武器類が接収された。軍の残務の引継ぎが一段落すると、久留米師管区司令部は、解隊式を行い、軍都としての歴史は、幕を下ろした。その後、軍の関連施設の跡地は学校などの公共用地として利用されていく。

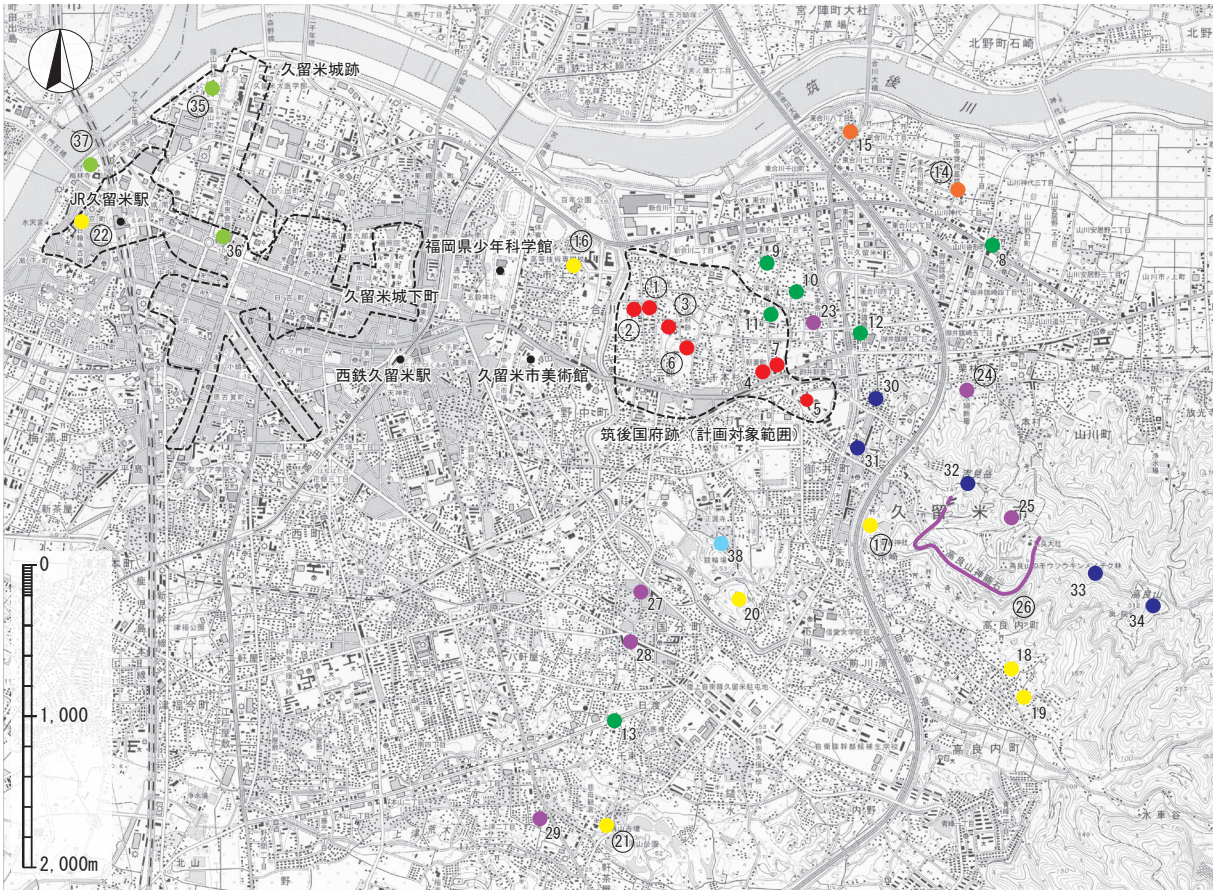
昭和 26 年（1951）には、合川村、山川村、上津荒木村が本市に編入されている。昭和 40 年代になると高度成長期に入り、昭和 45 年（1970）から九州自動車道の工事が始まり、昭和 48 年（1973）に供用開始した。久留米インターチェンジに近い東合川では、工業団地の造成や地場産くるめ（物産館）が建てられ、かつての田園風景から様変わりして店舗や工場が集中する

地域となっていった。

平成 17 年（2005）に浮羽郡田主丸町、三井郡北野町、三潴郡三潴町、同城島町と合併し、人口が 30 万人を突破したことから、平成 20 年（2008）には九州初の県庁所在市以外の中核市となり、現在に至っている。

（2）主要な遺跡の分布

前項の歴史の変遷で触れた筑後国府跡周辺の主要な遺跡の分布を以下に示す（図 2-2-7）。



1. 前身官衙　2. Ⅰ期政庁（古宮遺跡）　3. Ⅱ期政庁（阿弥陀遺跡）　4. Ⅲ期政庁（朝妻遺跡）
5. Ⅳ期政庁（横道遺跡）　6. 国司館　7. 在国司居屋敷　8. 野口遺跡　9. 西小路遺跡　10. 水洗遺跡　11. 上遺跡
12. 神道遺跡　13. 正福寺遺跡　14. 安国寺甕棺墓群（国史跡）　15. 新府遺跡　16. 市ノ上東屋敷遺跡（県史跡）
17. 祇園山古墳（県史跡）　18. 大谷古墳群　19. 岩竹古墳群　20. 隈山古墳群　21. 浦山古墳群（国史跡）
22. 日輪寺古墳（国史跡）　23. ヘボノ木遺跡　24. 山川前田遺跡（水縄断層・国天然記念物）　25. 高隆寺跡
26. 高良山神籠石（国史跡）　27. 筑後国分尼寺跡（推定）　28. 筑後国分寺跡（市史跡）　29. 上津土塁跡
30. 二本木遺跡　31. 安養寺境内遺跡　32. 吉見岳城　33. 杉ノ城　34. 毘沙門岳城　35. 久留米城本丸（県史跡）
36. 久留米城下町遺跡（両替町）　37. 久留米藩主有馬家墓所（国史跡）　38. 陸軍関係遺構群

● 筑後国府関連主要遺構　● 縄文時代　● 弥生時代　● 古墳時代　● 古代　● 中世　● 近世　● 近代

※ 図中の○数字は指定文化財。遺構の時代が複合する遺跡は代表的な時代で示す。

図 2-2-7　筑後国府跡周辺の主要遺跡分布図（1/50,000）

3．市民意向

保存活用計画を策定する際に、市民意向の把握を目的に合川校区在住の住民を対象とした住民説明会を開催し意見聴取を行った。その概要を以下に示す。

（1）住民説明会の概要

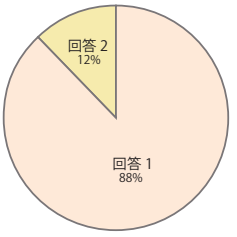
対　　象 ： 合川校区在住の人
会　　場 ： 合川校区コミュニティセンター
実 施 日 ： 令和 2 年 1 月 16 日（木）
参 加 者 ： 28 名（アンケート回収 26 名分）
方　　法 ： 計画内容の説明と質疑応答の後、アンケートを実施

図 2-3-1　説明会風景

（2）アンケート結果の概要

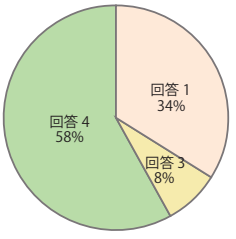
1）史跡筑後国府跡を知っていましたか？

	回答数	割合
1.　知っていた	23	88%
2.　名前は聞いたことがある	3	12%
3.　知らなかった	0	0%
回答数	26	100%



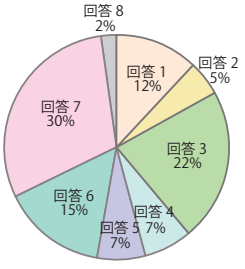
2）史跡筑後国府跡を訪ね歩いたことがありますか？

複数回答可	回答数	割合
1.　個人的に歩いたことがある	9	34%
2.　子どもの頃、社会科見学等で歩いたことがある	0	0%
3.　イベント等に参加して歩いたことがある	2	8%
4.　訪ね歩いたことはない	19	58%
回答数	26	100%



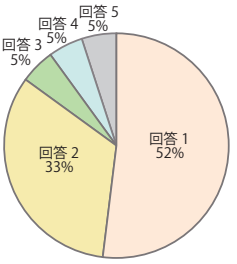
3）市は史跡筑後国府跡に関する情報提供を行っています。
見たことがあるものを教えてください。

複数回答可	回答数	割合
1.　筑後国府マップ「筑後国府を歩く」	7	12%
2.　筑後国府通信	3	5%
3.　校区別の文化財マップ「合川校区の文化財マップ」	13	22%
4.　上記以外のパンフレット（印刷物）	4	7%
5.　市のホームページ	4	7%
6.　合川校区コミュニティセンターでの筑後国府展（平成 21・22 年度開催）	9	15%
7.　史跡指定地に設置された説明板	18	30%
8.　未記入	1	2%
回答数	59	100%



4）史跡筑後国府跡がどういった場所になって欲しいと思いますか。

複数回答可	回答数	割合
1.　地域住民の憩いの場	22	52%
2.　市民が訪れる場（学校教育、生涯学習等）	14	33%
3.　観光客が訪れる場	2	5%
4.　その他	2	5%
5.　未記入	2	5%
回答数	42	100%



5）説明会への感想、今後の筑後国府跡の保存活用等に対するご意見をご記入下さい。

○現段階で手入れもされず､荒れたままの土地となっている｡草が高くなると子どもが隠れて危険｡長期的･段階的であれば、それまでの活用整備もきちんとしてほしい。
○地元の歴史を知ることが大事だと思います。
○市民でもほとんどの人が知らないと思う。広報などで連載紹介したらどうか。
○地元の祭り開催会場として活用してほしい。
○その時（整備の実施）まで子ども達に原っぱとして開放してほしい。
○難しいとは思いますが、できれば早めにより良い活用ができるようお願いします。
○建物の復元等を検討して頂きたい。
○歴史公園としての整備を期待しています。
○緑あふれる、自然あふれる場所であってほしい。
○住民が自由に使える「広場等」を整備してほしい。
○資料館等の建設。
○資料館とコミセンを同じ建物として、ただの箱物の建物とならない様に、地元民と市民もいろんな方が集える建物としてほしい。
○「ハコモノ」建設ありきは好ましくない。
○駐車場を広く整備してほしい。
○将来構想の具体性・イメージ等が無かったのには不満が残ります。
○今日来てみて何も進んでいなかったのだなと分かりました。
○公園の実現には程遠い状況のようですね。なにか早く具体的に計画をお願いします。
○スピーディに対応をお願いしたい。地域の発展が何より市民のためになると思われます。
○結局いつできるのですか。○○年にできますと決定したときにお願いします。
○口頭での説明だけでは分かり難いので、冊子にしてもらえないか。
○今後の追加説明があればと思います。